

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

平成27年1月8日

協議会名: 輪島市離島航路改善協議会

評価対象事業名: 離島航路運営費等補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
へぐら航路株式会社	輪島～舳倉島	<p>利用促進を重点的に実施し、利用者の増加に努めている。</p> <p>島民割引、団体割引制度を継続して実施し、利用者に対する利便性を確保している。</p> <p>安全を最重要課題とし、確実な輸送を行っている。</p>	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	<p>達成度 B 一部目標を達成できなかった</p> <p>【年間利用者数】⇒目標未達成 目標：8,920人以上 実績：8,735.5人</p> <p>【年間輸送量】⇒目標達成 目標：2,513t以上 実績：3,264t</p> <p>【収支率】⇒目標達成 目標：25.3%以上 実績：31.8%</p> <p>【情報発信】⇒目標達成 目標：舳倉島の積極的な情報発信 実績：市内外で各種情報発信を行っている</p> <p>【運航】⇒目標達成 目標：1日1往復体制の維持 実績：現在も利便性確保のために、1日1往復の体制を維持している</p>	<p>H26.4月からの消費税増税により、利用者数が伸びなかったことと、多くの利用者が見込める時期の欠航があったため、目標を達成出来なかったものと推測される。今後は多少の社会情勢の変化や荒天等があっても、目標を達成できるように、地域が一体となり継続して利用促進を図る必要がある。</p> <p>舳倉島での漁の状況に輸送量が左右されることもあるが、安全を最重要事項に掲げ、確実な輸送に努める。</p> <p>退職者がいる年度に収支率が悪くなる傾向にある。毎年の収支率を平準化するための経営改善策の検討が必要である。</p> <p>今後も利用促進策を継続して実施し、利用者を増加させていく必要がある。</p> <p>利用者の利便性を確保するために、今後も1日1往復の運航体制を維持していく。</p>

事業実施と生活交通ネットワーク計画との関連について

平成27年1月8日

協議会名:	輪島市離島航路改善協議会
評価対象事業名:	離島航路運営費等補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>舳倉島は、石川県能登半島の北約50kmの日本海上に浮かぶ有人離島であり、輪島市海士町に属する。人口が110人(平成22年国勢調査)、周囲が5.2kmと小さな島であるが、小中学校の分校、診療所、保育所、駐在所等の施設が有る。主な産業は漁業で、海女漁が盛んなことで知られており、バードウォッチャーや釣客にも人気が高い。</p> <p>輪島港と舳倉島を結ぶ離島航路は、本土輪島市と舳倉島間の海上50kmを結ぶ唯一の海上航路であり、本土輪島市の病院への通院、生活用品の買い出し等には本航路以外の公共交通手段は無く、島民にとって必要不可欠な生活の足となっている。</p> <p>従来から舳倉島は人口が少ないことと、本土からの距離が遠いことが起因し、航路の採算をとることが難しい状況にあり、今後も航路の経営は非常に厳しい状況である。</p> <p>一方で、舳倉島は日本海側中央部において地勢的に重要な位置にあり、その周囲には広大な排他的経済水域を有している。舳倉島は、我が国に貴重な資源をもたらしているとともに、防災・治安等の国家的な機能も果たしているが、この機能は島民の定住によって一層高まっている。</p> <p>将来に渡り、島民の生活の足を守り、舳倉島の離島としての重要な機能を維持するためには、地域公共交通確保維持事業により離島航路を維持していくことが必要である。</p>